

宇都宮市立宝木小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

学力改善プランとの関連

(1)子どもの学ぶ意欲・学習習慣

○「自然や宇宙など、科学の内容を扱っているテレビを見たり本を読んだりするのは好きだ」と答えている児童は県の平均と比べてやや多く、読書環境の整備など読書活動の推進に取り組んできた成果が表れており、他教科に比べて理科への関心が高い。

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」と答えている児童は、県平均よりやや高い。

●「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている。」と感じている児童が、県平均より低い。

そこで、児童が得意とする教科を中心に話し合い活動を増やし、話し合いの仕方の指導や話し合いを上手に進められるようなやり方を示すなどして支援していく。同時に児童が自分の意見に自信を持ち、進んで参加できるように、自己有用感を高める支援・指導をしていき、児童が自信を持って進んで学習に参加できるようにしていきたい。

(2)教師の指導力

○「学校の宿題は、やりたくない内容だ」と答えている児童は、県平均と比べて高く、「学校の宿題は、自分のためになっている」と考えている児童も県平均と比べてやや高い。教師が児童の興味・関心や生活に結びつくものを宿題にも取り入れて意欲を高めていくなどの工夫をしてきた結果と考える。今後も指導を継続していきたい。

●「先生は学習のことについてほめてくれる」と考えている児童は県平均と比べて低い。「できた」「できない」だけでなく児童自身の頑張りや成長を認めてあげられ場面や言葉かけをさらに増やしていきたい。

(3)保護者の理解・協力

○「家で学校の授業の復習をしている」「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」と答えた児童は、県平均と比べてやや高い。これは、家庭で勉強しやすい環境を整え保護者の励ましなどの協力があるからだと考える。引き続き学年だよりなどで家庭での学習の大切さを呼びかけていきたい。

●「家の人と学校のできごとについて話をしている」「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」「自分は家族の大切な一員だと思う」と答えた児童は市の平均と比べて低い。家庭においても子どもは「家族の一員として」もっと話を聞いてほしい、がんばっていることなどをほめてほしい、と思っていることがわかる。学習だよりなどで家庭へ啓発していきたい。